

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

平成 29 年度 講道館杯全日本柔道体重別選手権大会



女子 52kg 級入賞者 (左から立川、阿部、宮川、渡邊)



男子 100kg 超級入賞者 (左から上川、小川、佐藤、上田)

第65回全日本剣道選手権大会

西村英久

(熊本県警)

が

日本一に返り咲く

第65回全日本剣道選手権大会が11月3日、日本武道館で開催された。大会には、全国各地の予選を勝ち上がった64名の剣士が集結。9332名の観客が見守る中、剣道日本一を手中に収めるべく、鎧よろいを削くった。

決勝は、一昨年覇者の西村英久にしむらひでひさ(熊本県警)と過去3回選手権者となった内村良一うちむらよし(警視庁)の優勝経験者同士の対決となった。

試合は、西村が小手を二本決めて、剣道日本一に返り咲いた。





決勝＝西村（左）が小手で先取る

各都道府県の代表選手による、トーナメント方式によって選手権者を決定。試合は3本勝負で、時間は5分、準々決勝（4回戦）以降は10分となった。時間内に勝敗が決しない場合は延長戦を行い、先に一本を取った者を勝ちとした。

◆第1ブロック（1回戦）準々決勝

初出場である林田匡平（福井県立武道館）は、3回戦で坂口洋司（京都府警）と対戦。延長の末に坂口が小手に出たところに、林田は面を決めて準々決勝に進出した。

前年優勝の勝見洋介（神奈川県警）は、2回戦で上登喜文（石川県警）と対戦。勝見が竹刀を上げたその出ばなを上登に小手で捉えられて、まさかの敗退となった。

笹川哲平（佐賀県警）は、3回戦で、勝見を破った上登と対決し、笹川が上登の出頭に面を決めて、一本勝した。

準々決勝、林田と笹川の対決。林田は開始早々に、笹川が面にきたところを出ばな小手で先取る。試合時間3分半、笹川が諸手で突いてきたが、林田は崩れることなくその突



準々決勝＝林田（左）は引き面で、準決勝に進出



準々決勝＝内村（左）の二本目の小手

きを余して、引き面を決めた。林田が準決勝に勝ち上がった。

▽前年優勝者Ⅱ勝見洋介選手（神奈川県警）

「2回戦は慎重になってしまい、手数が出ませんでした。自分のペースに持っていけなかったのが敗因です。連覇のプレッシャーもあったと思います。神奈川県警で連覇をされている宮崎正裕先生と高鍋進先生のすごさを実感しました」

▽ベスト8Ⅱ笹川哲平選手（佐賀県警）

「勝ちたかったです。いこうとしたら小手を打たれてしまい、一本取り返そうと突きにいったら上手く躲かれました。気持ちのコントロールが難しかったです」

◆第2ブロック（1回戦）準々決勝

初出場の前田康喜（大阪府警）は1回戦で上段の仲間洋輔（沖縄県警）と対戦し、35分におよぶ試合で小手で制した。その前田は3回戦で前回3位の宮本敬太（茨城・国士館

大）と対戦。前田は面で先制し、その後も、宮本が入ってきたところに小手を決めて、準々決勝に進出した。

4回目の優勝を狙う内村良一（警視庁）は順調に勝ち進む。3回戦の中村太亮（愛知県警）との試合では裏からの面、出ばな小手と立て続けに打ち抜いて、二本勝となった。

準々決勝の内村対前田戦、中盤に互いに面を繰り返すが、一瞬早く前田の面が決まった。残り3分、内村が前田を浮かせて小手を決め、前田が居着いたところに更に小手と連

取。順当に準決勝へと進出した。

◆第3ブロック(1回戦)準々決勝

一昨年覇者の西村英久(熊本県警)

面で一本勝を収めた。

準々決勝、西村と山本の対戦。西村は、山本の面に合わせた出ばな小

▽ベスト8 前田康喜選手(大阪府警)
「大阪の予選は、日本で一番厳しいといわれています。そこで勝ち上がりましたので、自信をもって選手権に臨みました。一回戦の仲間選手との試合が長い試合となり、そこで緊張がほぐれたように思えます。内村選手との試合では守りにいったら決められてしまいました」

が登場。1回戦は相手の引き小手に合せて引き面で一本勝した。2回戦では相手が面に飛んだところに出ばな小手を、3回戦でも狙い澄ました小手を決めて順調に勝ち進む。

手で先取。その直後も得意の下から的小手が決まって、二本勝となった。

今大会最年少の千田海(宮城・明治大・21歳)は、果敢に攻めるもの1回戦で敗退となった。

山本隆裕(広島県警)は、3回戦の足立柳次(埼玉県警)と対戦し、

▽ベスト8 山本隆裕選手(広島県警)
「西村選手の対戦では、レベルの違いを痛感しました。出ばな小手を打たれてからは、悔いのない試合をしようとしたのですが、また、決められてしまいました」

▽今大会最年少 千田海選手(宮城県代表・明治大・21歳)
「気を抜いた時に打たれてしまいました。選手権の雰囲気は独特です。周りが静かなので、相手と自分だけに集中できました」

◆第4ブロック(1回戦)準々決勝

22歳の真田裕行(鳥取・鹿屋体育大)は学生ながら好調な試合運びを見せ、準々決勝に進出した。

過去3位入賞経験のある畠中宏輔(警視庁)は、3回戦の延長戦で、

佐藤弘隆(千葉県警)に対して、中段から佐藤の面を余して引きながら面を奪った。
準々決勝の畠中対真田戦。延長戦6分過ぎ、試合が一旦中断する。再開の直後に、畠中が面が出ばなを捉えて試合を制した。

▽ベスト8 真田裕行選手(鳥取県代表・鹿屋体育大)
「持てる力をすべて発揮したと思います。準々決勝の最後は経験の差だと思っています。自分の悪い所が出てしまいました。今後でも選手権での優勝を目指していきたいですね」



準々決勝=西村(左)が二本目の小手を決めた



準々決勝=攻める畠中(右)

◆準決勝

内村良一 メコー メ 林田匡平

37歳の内村と23歳の林田。ベテランと14歳差がある若手との対決となった。前半、間合いを図り、様子を探る林田は、内村の入り際に面を先取した。再開直後、すぐに両者は攻め入った。林田の小手に対して内村は面に返して、試合を五分に引き戻す。再び面を狙う林田に対して、負けじと内村も小手を狙っていく。内村の出ばな小手が決まって勝負あり。

準々決勝に引き続いて内村は逆転勝ちし、4年ぶり通算7回目となる

決勝戦へと進んだ。

▽3位 林田匡平選手（福井県立武道館）



「準決勝では、いい形で面を取れましたが、二本目は見事に返

されてしまいました。完敗です。調子はそんなに良くはなかったのですが、自分の力を出し切ろうと思ってきました。準決勝までこられて上出来です。同期の竹ノ内選手に追いつきたいのですが、まだまだですね」



準決勝＝内村（左）が出ばな小手を決めた



準決勝＝西村（左）が小手を奪って、一本勝

西村英久 コー 畠中宏輔

幾度となく対戦経験のある両者。10月の全国警察剣道大会（団体戦）では引分となっている。

思い切った面に飛び込んで行く西村。決まらないものの積極的な試合運びを見せる。しかし中盤では、両者は手の内を知り尽くしているためか決め手に欠けて、鏝（せ）競り合いが目立ち始める。6分が経過し、場外際に攻められた西村は、畠中が手元を上げた瞬間に思い切った小手に飛び込んだ。見事に決まって西村が先取る。大きく領（な）いた西村。後半、

西村は畠中の攻めを凌ぎ切って、試合は終了。西村は一本勝を収めて、2度目の決勝進出を果たした。

▽3位 畠中宏輔選手（警視庁）



「西村選手との準決勝は、自分の身体が動く限りやってみよう

と思いました。しかし、なかなか打たせてくれませんでした。西村選手は守りが堅いですし、守りが堅いと思ったら飛んできません。そこを崩せなかったのが敗因ですね」

決勝

西村英久 ココー 内村良一

2年ぶりの優勝を目指す西村と4回目の優勝を狙う内村による選手権

覇者同士の対決となった。

ともに九州学院高校出身で、西村が九州学院在学中には、すでに内村



決勝＝西村（左）が小手で二本勝を収める

は警視庁に奉職。9歳差の先輩・後輩にあたり、西村にとつて、内村は憧れの大先輩である。そして2年前の世界選手権では、内村をリーダーとして、ともに戦ったチームメイトでもある。大歓声があがる中、両者の戦いは始まった。

開始直後、西村は大きな気合いをあげながら直ちに攻め入る。内村も負けじと応じるものの、西村は初太刀から自身の得意技の小手を決めた。場内からは大きな拍手が沸き上がる。

歓声が止まないまま、西村は内村の小手を恐れることなく、積極的に攻め込む。機を窺い小手を仕掛けようとすると内村だが、果敢に攻める西村の動きになかなか隙を見つけないとが出来ず攻め込めない。

試合開始6分過ぎ、西村が決め手となる二本目の小手を内村から奪った。

自分の剣道を最後まで貫いた西村が、九州学院高校の大先輩を破って、2年ぶり2度目の栄冠を勝ち取った。万雷の拍手が送られる中、西村は深々と礼をして試合場を後にした。

○準優勝Ⅱ内村良一選手（警視庁）
うちむらりよしいち



「昨年、警視庁の剣道特練員を引退して、稽古時間は少なくなりました。しかし、自分のやれる環境の中でどうにかベストの稽古ができるようにやりました。短くなつた稽古では、課題を持って行い、そして反省をして、次の稽古につなげることで、稽古量を補っています。

今日の敗因は、気持ちが動いてしまったことです。勝負に行くところで、自分の心が、気持ちが動いてしまったかなと思います。気持ちが動いたことよつて手元が浮いてしまいました。西村選手は、攻めが強いですし、その攻めに気持ち動いてしまいました。やっぱり最後は気持ちの勝負かなと思います。負けましたので、西村選手が一枚上手だと思います」

自分の剣道を見つめ直し 再び掴んだ栄冠

◎優勝Ⅱ西村英久選手（熊本県警）



西村 英久
（にしむら・ひでゆき）
剣道五段、熊本県警主幹、所属大会回数、位、優勝、構成
身、卒、隊、手、第、位、人、抗、小、

インタビュースタッフで大粒の汗を拭いながら笑顔で今の心境を語ってくれた西村選手。決勝の感想を伺った。「嬉しいです。結果にとらわれることなく剣道を楽しむことができました。全試合を通して、ほぼ、小手で決めましたので、自分の持ち味が出せたと思います。決勝での最初の小手は、思い切って自分のよさを出し切ろうと思って打っていききました。一本取ってからは、自分が打てるどころだけ打っていききました」

「去年、選手権で初優勝を飾り、

期待されて臨んだ昨年の選手権は準々決勝で敗れ、苦汁をなめた。自分の剣道を見つめ直すそうと、悩み抜いた末に、ある答えが浮かんだという。「去年の選手権は、勝たなければいけないという重圧でいっぱいでした。結果、悔しい思いをしてしまいました。その後、自分の剣道を見つめ直しました。そして行き着いた答えが『やっぱり、自分は剣道が好きなんだ』ということ。『そうであれば剣道をとことん楽しもう』と

いう気持ちに至りました。選手権ともなると、選手の技術は拮抗しており、大事なのはメンタル面となります。負けたらダメだと思おうと打てなくなり。負けてもいいからどんだん打っていいこうと思直ししました。自分のイメージとして防御を6割から3割に変えてみました。その結果が出たのだと思います」

戦となり、胸を借りる気持ちで挑みました。そして、勝つことができず。内村選手には感謝の気持ちでいっぱいです」

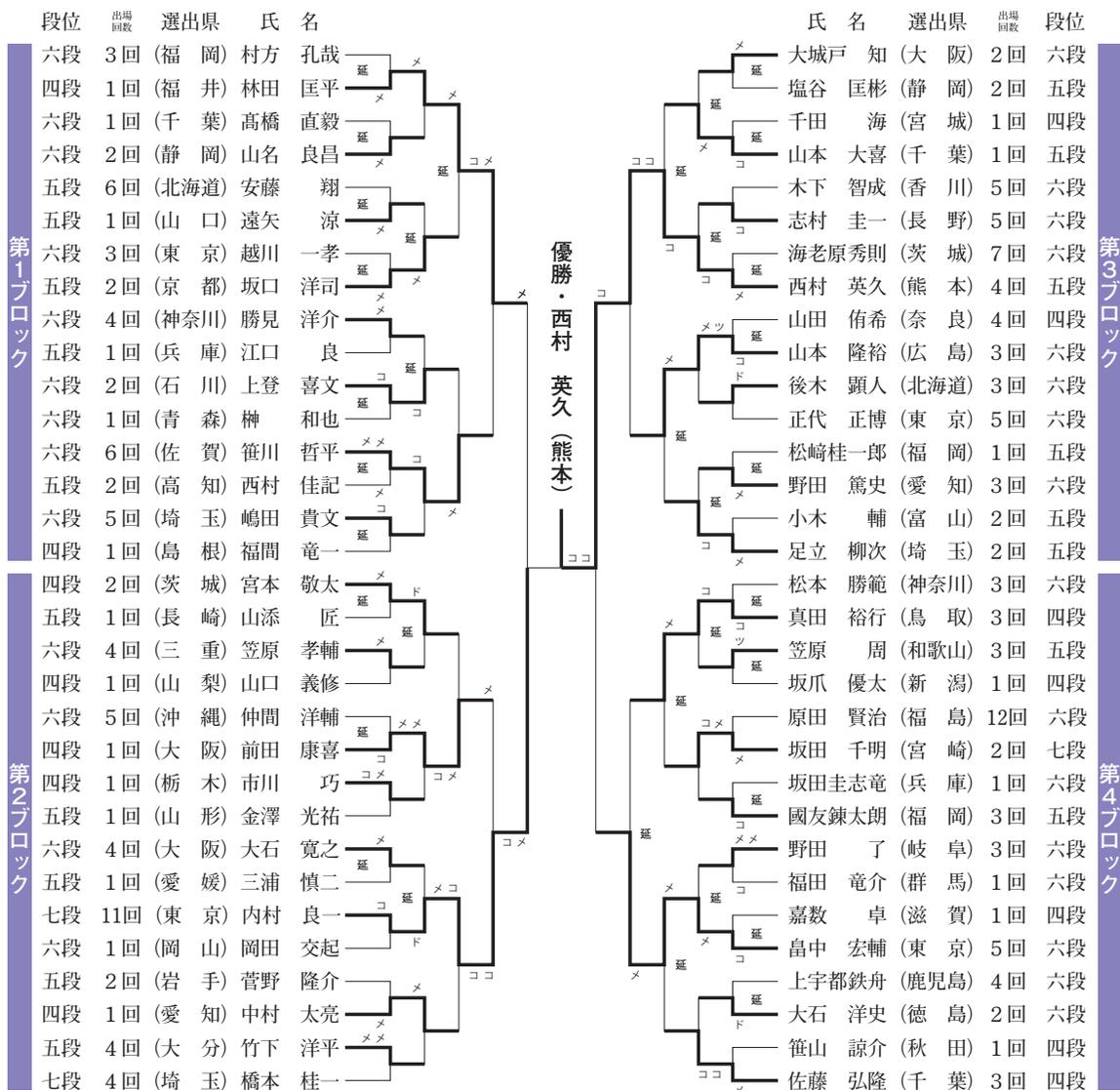
「内村選手は憧れる先輩です。剣道はもちろんですが、人柄が素晴らしいのです。剣道にそれがにじみ出ています。内村選手からは、剣道を通して人間として成長する大切さを学びました。その内村選手と決勝で対

戦となり、胸を借りる気持ちで挑みました。そして、勝つことができず。内村選手には感謝の気持ちでいっぱいです」



天皇杯を手にする西村英久選手

第65回 全日本剣道選手権大会

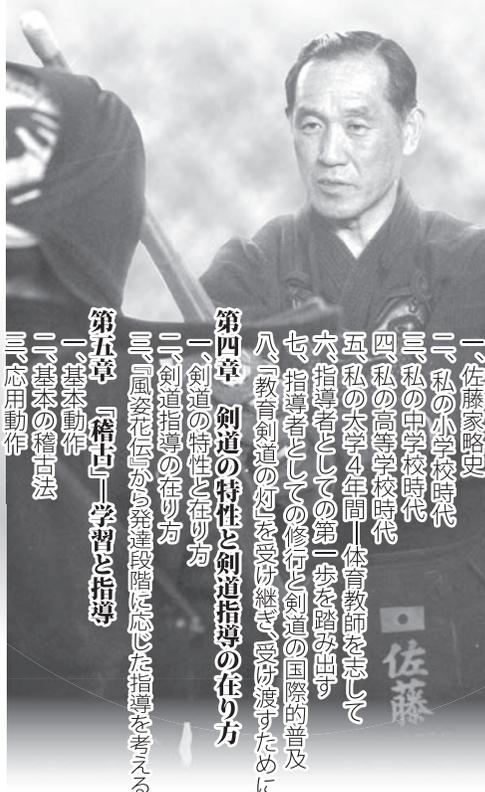
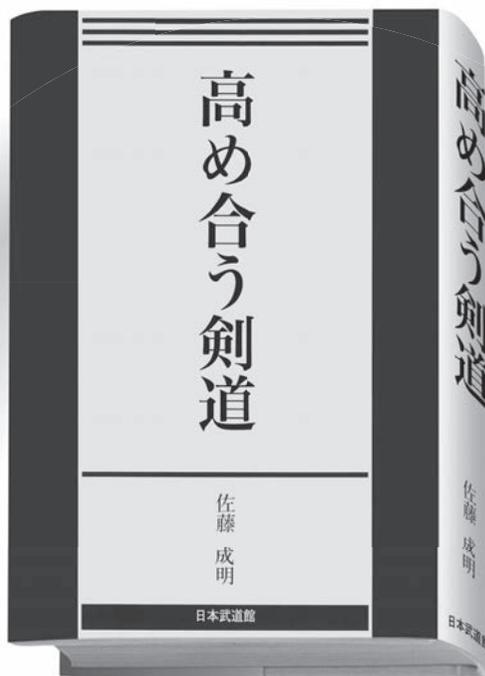


開会式で整列する選手たち。64名の選手で覇を競った

◎好評発売中

高め合う剣道

筑波大学名誉教授 佐藤成明 著



目次

第一章 剣道小史―剣技・剣術・剣道の歴史

一、奈良時代〜江戸中期―

闘争の技術から竹刀剣術の誕生まで

二、江戸時代中期以降〜現在―剣術から剣道へ

第二章 剣道と教育

一、教育に関する基礎知識

二、「三育思想」

三、「教育基本法」と「学習指導要領」

四、「礼」の教育について

第三章 自分史を綴く

一、佐藤家略史

二、私の小学校時代

三、私の中学校時代

四、私の高等学校時代

五、私の大学4年間―体育教師を志して

六、指導者としての第一歩を踏み出す

七、指導者としての修行と剣道の国際的普及

八、「教育剣道の灯」を受け継ぎ、受け渡すために

第四章 剣道の特性と剣道指導の在り方

一、剣道の特性と在り方

二、剣道指導の在り方

三、「風姿花信」から発達段階に応じた指導を考える

第五章 「稽古」―学習と指導

一、基本動作

二、基本の稽古法

三、応用動作

四、稽古への取組方と方法

五、剣道における形の重要性

第六章 試合について

一、試合(一)―先達の文献から

二、試合(二)―剣道の「術理」

終章 高め合う剣道

一、稽古の意義と心得

二、剣道に関する古今の訓え

三、互いに学び高め合う教育剣道のために

“互いに学び高め合う教育剣道のために”

先達が心血を注いで残した「教育剣道の灯」を、正しく受け継ぎ、次代へ正しく受け渡すために、教育剣道の実践者として長年の経験をもつ筆者が、古今の文献を手掛かりに日々の修練で大事な事柄を綴る。

これからの剣道の在り方、すべての剣道を学ぶ者が「互いに学び、高め合う剣道」の在り方を考えるために必携の一書。

四六判・上製・564頁・本体2400円十税



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット
(B5判・上製・DVD付・336頁)



高め合う剣道

筑波大学名誉教授

佐藤 成明 著

(四六判・上製・564頁)



刀剣の 歴史と思想

筑波大学大学院准教授

酒井 利信 著

(四六判・上製・346頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



禅の思想と剣術

北海道大学大学院教授

佐藤 錬太郎 著

(四六判・上製・386頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



人を育てる剣道

剣道範士八段

角 正武 著

(四六判・上製・268頁)



武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

(四六判・上製・274頁)

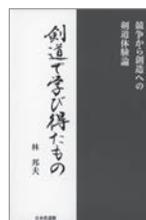


兵法家伝書に学ぶ

文教大学教授

加藤 純一 著

(四六判・上製・344頁)



剣道で 学び得たもの

中京大学教授

林 邦夫 著

(四六判・上製・298頁)

平成29年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会



男子100kg 超級決勝=小川（左）が上川に大内刈を決める

平成29年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会（主催Ⅱ全日本柔道連盟）が11月11日・12日の2日間、2018年世界柔道選手権大会（バクー）日本代表の第1次選考会を兼ねて千葉ポートアリーナで開催された。試合は男女14階級で争われ、熾烈な戦いが繰り広げられた。

男子

▽60kg級

決勝は、全日本学生体重別を制した宮之原誠也（国士舘大）対山本達彦（東海大）。互いに初優勝を目指す。

左組の宮之原、右組の山本でケンカ四つ。山本は組み合わせ合わせとして指導1を受け、さらに積極的戦意に欠けるとして指導を重ねる。後がない山本は一本背負投を仕掛け、体勢を崩した山本に宮之原はすかさず寝技に入る。しかし、山本は足を使い寝技を封じる。続いて、宮之原は小内刈を繰り出すと、山本は上半身をひねって回避した。試合はゴールデ

ンスコア（以下、GS）に突入。GS開始57秒、宮之原は低い姿勢で山本の懐に潜ると肩車を決めて技有。

宮之原が優勢勝で初優勝となった。

◎優勝Ⅱ宮之原誠也選手（国士舘大）

「きつかったです。GSばかりの試合でどうしたらよいか分からなくなるくらいでした。『予想外』の選手である自分がここで勝つことができたのは大きいと思います。今日は寝技でも一本を取ることが心がけ

ましたが、全然かけられなかったのもっと練習をしていきたいです。グランドスラムで、高藤直寿選手や山竜樹選手に勝ってはじめて世界一になれると思うので頑張ります」

▽66kg級

4年ぶりの優勝を目指す丸山城志郎（ミキハウス）と前回優勝の磯田範仁（国士舘大）を準決勝で破った一昨年学生体重別で優勝の田川兼三（筑波大）との対戦。

丸山は左組、田川は右組のケンカ四つ。田川は釣手を外から、丸山は内から持つて引手の組手争い。ここで、組み合わせ合わせとして両者に指導1。田川はリーチを活かして、丸山



男子 60kg級決勝＝宮之原（左）対山本



男子 66kg級決勝＝丸山（下）が腰車で技有を奪う



男子 73kg級決勝＝立川（左）が攻める

の背中を持ちにくい、寝技を狙う。田川が小外刈で攻めると、負けじと丸山も内股で攻める。丸山は巴投、そして引手を持った瞬間に内股を繰り出して果敢に攻める。4分経過でGSへ。丸山は田川を揺さぶって巴投を仕掛けるなど猛攻をかける。最後は丸山が思い切った腰車を放つと田川が跳ね上げられて技有。丸山は二度目の優勝を果たした。

◎優勝Ⅱ丸山城志郎選手（ミキハウス）

「試合の3週間くらい前に右膝を怪我して、ほぼ練習ができない状態で今日を迎えました。今までやってき

たことを信じて、気持ちで乗り切った大会だったと思います。母校の天理大学で大学の時と変わらずに稽古をしていて、穴井隆将先生の追い込みのお陰で頑張れています。グラウンドスラムでも優勝を目指して一つ一つ戦い、阿部選手に勝って優勝することが目標です」

▽73kg級

前回優勝の立川新（東海大）が、今季から階級を上げて出場した66kg級五輪2大会連続銅メダルの海老沼匡（パーク24）に延長の末、腕挫十

字固で一本勝ちし、決勝の舞台へ。対戦相手は、全日本学生体重別選手権を制した野上廉太郎（筑波大）。両者左組の相四つ。立川はしっかりと野上の釣手を潰すと、野上は極端な防御姿勢で指導を受ける。野上は組間で袖釣込腰を仕掛けるも組手不十分で決まらない。組手争いとなり、野上が首抜きでさらに指導。立川はなおも野上に圧力をかけ続ける。野上は必死で大外刈を放つが決め切れない。野上は首抜きで再び指導を受ける。

立て続けに指導3つを受けた野上の反則負けとなり、組手で優位に立った立川が連覇した。

◎優勝Ⅱ立川新選手（東海大）

「前回までは挑戦者でしたが、今年は負けられないという気持ちでした。優勝してホッとしています。受けの部分が去年より強くなったので、試合では投げられることが少なくなっただと感じました。大学で受けをしっかり行い、体幹が強くなったからだと思います。今後は得意の足技を活かせるような練習をして投技を強くしていきたいです」



男子90kg級決勝＝向(上)が背負投で釘丸に勝利



男子81kg級決勝＝佐々木(手前)が腕挫十字固で一本勝

▽81kg級

前回優勝の渡邊勇人(了徳寺学園)は腰部椎間板ヘルニアの術後加療のため欠場。ロンドン五輪73kg級銀メダリストの中矢力(ALSOK)は階級を上げて出場し、3回戦でGSの末に一本負を喫した。

決勝戦は、佐々木健志(筑波大)と前回3位の小原拳哉(パーク24)の対戦。佐々木は右組、小原は左組のケンカ四つ。まず仕掛けたのは佐々木、組手争いから巴投に入るが決まらない。一方の小原は内股を狙うが、佐々木はこれを見事に透かす。と同時に、佐々木は倒れ込んだ小原に流れるように腕挫十字固を決めると一本。開始わずか45秒で試合は決着し、佐々木は初優勝を果たした。

◎優勝Ⅱ佐々木健志選手(筑波大)

「組手が苦手な頭を下げないよう毎日意識して練習しました。学生選手権と団体では本当に勝てなくて悔しかったんです。この階級では、まだ下の方だと思うので、もっと実績を積み重ねられるように頑張ります。グラウンドスラムは厳しい戦いになると思います。勝ちを意識して徹底

してやっていきたいと思っています」

▽90kg級

前回3位で全日本学生チャンピオンの向翔一郎(日本大)は全て一本勝で決勝に進出した。対戦相手は、前回優勝の長澤憲大(パーク24)を準決勝で破った前回2位の釘丸太一(セントリー)。

両者左組の相四つ。向は試合開始早々に払巻込を仕掛け、堪えた釘丸が寝技で抑え込みにかかる。寝技が解けると両者はがちりと組む。釘丸が得意の大外刈を仕掛けるも不発。組手争いとなるが互いに技を決め切れない。開始2分、向は組際に左の背負投を放つと技有。追い込まれた釘丸は、大外刈と見せかけての支釣込足、そして寝技を狙う。ここで守りに入った向に指導1が与えられる。さらに、向が逃げるように放った払巻込が偽装攻撃として指導1となるが、そのまま試合は終了。向は背負投の優勢勝で嬉しい初優勝となった。

◎優勝Ⅱ向翔一郎選手(日本大)

「(決勝は)最初体が動かなくて、息が上がるのも早かったんですけど

ど、狙っていたところで背負投に入れたのは良かったと思います。選抜が終わってから天狗というか、自分の力に慢心し、つけ上がりしているところがありました。自分はまた世界で実績を残していないし、ベイカー、茉秋選手や長澤選手の足元にも及ばないという自覚はあります。世界選手権に出てやつとスタートラインに立てると思うので、次のグラウンドスラムは獲りにいきたいです」

▽100kg級

前回2位の飯田健太郎(国土館大)と前回3位の下和田翔平(京葉ガス)の対戦。両者は初戦を除いて全て一本勝し、熱戦が期待された。

両者は右組で相四つ。互いに間合いを取りながらの組手争い。先に下和田が強引に大内刈に出ると、飯田も大内刈で応戦。両者が前に出ずに足技で様子を見ていると、消極的姿勢として指導1がそれぞれ与えられる。飯田は一本背負投で下和田に迫ると、今度は下和田が大外刈を仕掛ける。

GSに突入すると、下和田が徐々に前に出て、大内刈、大外刈と手数



男子 100kg 級決勝＝飯田（手前）の
大外返が下和田を捉える



男子 100kg 超級決勝＝小川（左）が大内刈を仕掛ける

を増やす。一方の飯田は大外刈から内股に連絡する。追い込まれた下和田が組際で大外刈を放つと、飯田は冷静に対応し、大外返で技有。飯田が初優勝を遂げた。

◎優勝Ⅱ飯田健太郎選手（国士舘大）

「自分の組手にさせてもらえず、なんとか上手く返し技が決まりました。体が勝手に反応したというのか、投げにいった結果だと思っんです。が、もつと自分の技で勝負をしたかったです。準決勝は、最後まで諦めずに粘って勝ったので、自分の課題

であるスタミナが少しは成長したかなと思います。今後は技のバリエーションを増やして、がむしやらにやりたいと思います」

▽100kg 超級

決勝は、小川雄勢（明治大）と数々の大会で実績を誇る上川大樹（京葉ガス）による、明治大の先輩・後輩対決となった。

上川は右組、小川は左組。小川は釣手を上から持って有利な体勢で上川に圧力をかける。上川が場外で指

導1。一方の上川は、動きながらの足払いで小川を崩していく。さらに上川は両襟を持って小川の頭を下げにかかると、小川は極端な防御姿勢となつて指導1。上川の釣手が効いて小川は後ろに下がっていく。ここで小川が勝負に出る。

試合開始2分5秒、小川が捨て身の大内刈を仕掛けると上川は堪らず畳に倒れ込んで、見事な一本。小川は初優勝に喜びを爆発させた。

◎優勝Ⅱ小川雄勢選手（明治大）

「上川先輩がおめでどうと言ってく

れました。自信になった試合です。上川先輩とは何回も練習していて、僕の方が分が悪いと思いい、一発思い切り掛けるつもりで技を出しました。去年は4回戦で佐藤選手に負けて、そこからは同じ階級の選手たちとの差がつく状況で苦しい1年でした。ここで優勝したいという気持ちが強かったからこそ優勝ができたと思います。地道にやるっていうのが僕のスタイルです。グラウンドスラムでは優勝を狙って頑張ります」



女子 52kg 級決勝＝阿部（下）が一本背負投で攻める



女子 48kg 級決勝＝遠藤（右）が攻める

■女子

▽48 kg 級

決勝は、全日本実業団柔道個人選手権優勝の遠藤宏美選手（ALSOK）と前回2位の森崎由理江（宮崎大学教員）との対戦。奇しくも4年前と同じ顔合せとなった。

ともに右組の相四つ。遠藤が釣手を取って小内刈で攻める。一方の森崎も小内刈、巴投を仕掛けて攻めていく。森崎は足技を駆使して攻めると、遠藤も負けじと寝技を狙う。組手争いが激しさを増す。遠藤が前に出てきた森崎の片襟を持って背負投を放つと技有。その後、両者が極端な防御姿勢を取ったとして指導1が与えられる。遠藤は内股から寝技への移行、背負投など多彩な技を仕掛けるが森崎はこれに対応する。そのまま時間となり試合終了。遠藤は4年前の雪辱を晴らして優勢勝で初優勝となった。

◎優勝Ⅱ遠藤宏美選手（ALSOK）

「緊張はしたんですが、上がりすぎず、落ち着いて試合ができました。試合の状況や相手の様子を見られたのが今回の勝因かなと思います。ま

た、組み負けなかったことが良かったです。今後、投技を詰めて練習したいと思います。グラウンドスラムではしっかりと優勝できるように準備をしていきます」

▽52 kg 級

決勝は、世界ジュニア女王で高校2年生の阿部詩（夙川学院高）と前回2位でユニバーシアード優勝の立川莉奈（福岡大）との対戦。

ともに右組の相四つ。両者引手も落として攻めると、阿部が奥襟を掴んで立川を潰しにかかる。立川は組み合わないとして指導1。激しい組手争いが続き、阿部は立川の釣手をしっかりと絞って攻める隙を与えない。さらに阿部は圧力をかけて立川は場外へ。立川はさらに指導1を受ける。後がない立川は、阿部を攻めるも組手不十分で技が出せない。試合時間4分が経過。GSに突入すると39秒、阿部が担技に動く而立川が警戒して後ろに下がる。そこに阿部はすぐさま変化し、大外落を決めると技有。阿部が優勢勝で嬉しい初優勝。高校生では3大会ぶり史上4人目の優勝となった。

◎優勝Ⅱ阿部 詩選手（夙川学院高）

「決勝は研究されて決めにくくなるだろうと思っていました。この大会で勝つことによって自信を持つことができ、成長できると思います。今は力負けしなくなり、組手のパターンが増えました。それは2月のデユッセルドルフの大会での優勝が一番大きかったと思います。絶対に負けないという自信があります。グラウンドスラムでは兄妹（兄・阿部一二三選手）揃って金メダルを獲ります」

▽57 kg 級

初出場した中学3年時に3位入賞、桐蔭学園高時代には52kg級と57kg級で優勝した山本杏（パーク24）が、準々決勝で舟久保遥香（三井住友海上）を、準決勝で宇高菜絵（コマツ）といった強豪を次々に降して決勝進出。対戦相手は、前回優勝者の石川慈（コマツ）を破った渡部優花（ALSOK）。

山本は左組、渡部は右組。山本に片襟の指導1が与えられる。組手で優位に立った渡部はなおも積極的に攻めていく。開始1分24秒、攻めに出了山本が小外刈などの足技を巧み

マンガ・武道のすすめ

大人も子どもも読んで読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。



漫画家・別府大学教授
田代しんたろう 著

柔道は、大澤慶己、長谷川博之、腹巻宏一
吉村和郎、山内直人の5氏を掲載！

B5判・236頁

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課まで
TEL 03-3216-5147



女子63kg級決勝=土井(右)対田代



女子57kg級決勝=山本(下)が袖釣込腰で優勝

に使って攻め続けると最後は力強い袖釣込腰で一本勝。山本が5年ぶりに返り咲きを果たして嬉し涙を流した。

◎優勝Ⅱ山本 杏選手(パーク24)
「1回戦は情けない試合をして、そこから集中して臨みました。去年の講道館杯で弱くなった自分を初めて受け入れることができました。大学生の時は勝ちたいという気持ちが先走って心と体が一致してない状態で戦っていたと思います。止めたいと思った時もありました。でも、自分がこんなところで逃げていたら申し訳ないという思いが強くて、もう一度頑張ることができました」

▽63kg級
土井雅子(環太平洋大)が2連覇の能智亜衣美(筑波大)を初戦で破って決勝進出。対戦相手は、リオ五輪日本代表の田代未来(コマツ)。

土井は右組、田代は左組のケンカ四つ。両者はがっちり組んで、先に仕掛けたのは土井。しかし、土井の片襟に指導1がつく。一方の田代は釣手を持って土井に圧力をかけ、土井の内股を封じ、釣手を落として土井は防戦一方となる。田代が両襟を持って土井をコントロールすると土井が袖口を掴んで指導1。組手で上回る田代だったが、手首を持ったとしてさらに指導1。試合はGSへ。

土井は田代の釣手を殺し始めて、内股、巴投と攻め手を緩めない。田代も大内刈で応戦すると土井は袖釣込腰を返す。土井は田代が技に飛び込んだところを上手く対応して、小外刈で技有。涙の初優勝を決めた。

◎優勝Ⅱ土井雅子選手(環太平洋大)
「田代選手とは一回も試合をしたことがなく、オリンピックの舞台で戦っている方なので緊張しました。決勝は相手をずらして得意の内股を入れ、狙えたら寝技にいきたいという思いがありました。東京オリンピックを目標して頑張っていきたいです」



女子70kg級決勝=新添(右)が攻める



女子78kg級決勝=濱田(右)が腕挫十字固で一本勝



女子78kg 超級決勝=井上(上)が素根をひっくり返して肩固で優勝

▽70kg級

昨年優勝の新添左季(山梨学院大)が2連覇に向け、決勝まで全て一本勝で順当に勝ち進んだ。対戦相手は、田中志歩(環太平洋大)。

左組の相四つ。攻め切れない両者に消極的姿勢で指導1がつく。田中は大外刈から払腰、内股、背負投、小内巻込と技を変えて攻める。その後、両者は足を使い牽制し合う展開。

GSに突入。新添は田中を十分に引きつけ有利に組手を運ぶ。ここで田中に片襟の指導が与えられて試合は終了。新添は苦しみながらも優勢勝で辛勝して連覇を飾った。

◎優勝Ⅱ新添左季選手(山梨学院大)

「田中選手とは今年3回目の対戦で

す。お互いに手の内を知っているの
で、技でポイントを取ることが難し
かったです。積極的に攻めて技有以
上を取って投げる柔道をしたいで
す。世界チャンピオンの新井選手を
目標にしつつ、追い抜ければいいな
と思います」

▽78kg級

2年ぶりの優勝を目指す濱田尚里(自衛隊体育学校)が全て一本勝で決勝に進出。対戦相手は、全国高校総体優勝の和田梨乃子(大成高)。

和田が左組、濱田が右組のケンカ四つ。和田が内股で攻めていくと、濱田も前に出て行く。和田が仕掛けてくる濱田に応じて小外刈を放つと

技有。これに怯まない濱田は和田を積極的に抑え込む。寝技が解けると今度は濱田が奥襟を持って内股へ。

互いに足を使って攻め合う展開。組み勝った濱田が先に勝負に出て小外刈で技有。倒れた和田に腕挫十字固を極めると一本。濱田は技有で先制されながらも堂々とした攻めで、2度目の優勝を決めた。

◎優勝Ⅱ濱田尚里選手(自衛隊体育学校)

「立ち技がまだ下手なので受けをし
っかりやっていきたいです。和田選
手は高校生で勢いがある、技の出
し方も上手いなど思っていたので、
落ちて置いて一つずつ自分の得意なパ
ターンに持っていきたいと思ってい
ました。佐藤瑠香選手や梅木直美選

手がいる中で、世界選手権代表に入
れるように頑張りたいです」

▽78kg超級

決勝は、夏季ユニバーシアード大
会無差別級金メダルの井上あかり
(環太平洋大)と、昨年2位で全日
本体重別選手権78kg超級覇者の素根
輝(南筑高)と対戦。

井上は右組、素根は左組のケンカ
四つ。組手争いから、井上が素根に
圧力をかけて潰しにかかる。試合開
始1分、うつ伏せになった108kgの素
根を井上が強引にひっくり返す。そ
のまま抑え込むと、素根はなす術が
なく20秒が経過。井上が得意の肩固
で一本勝ちし、嬉しい初優勝を果た
した。

◎優勝Ⅱ井上あかり選手(環太平洋大)

「組手を徹底して、チャンスがあつ
たら必ず寝技で取ろうと思っていま
した。素根選手は組手も強かった
し、技の入り方も上手いので、寝技
が来たら寝技で返そうと思ってまし
た。今年ユニバーシアードで優勝し
たことで自信になりました。この優
勝をバネに世界選手権でも優勝して
いきたいです」

【大会結果】

◆男子	優勝	2位	3位
100kg超級	小川雄勢 (明治大) (初優勝)	上川大樹 (京葉ガス)	佐藤和哉 (日本大) 上田轄麻 (新日鐵住金)
100kg級	飯田健太郎 (国士館大) (初優勝)	下和田翔平 (京葉ガス)	熊代佑輔 (ALSOK) 西山大希 (新日鐵住金)
90kg級	向翔一郎 (日本大) (初優勝)	釘丸太一 (センコー)	小林悠輔 (旭化成) 増山香補 (明治大)
81kg級	佐々木健志 (筑波大) (初優勝)	小原拳哉 (パーク24)	山本悠司 (天理大) 糸井滉平 (大阪府警)
73kg級	立川 新 (東海大) (2年連続2回目)	野上廉太郎 (筑波大)	吉田優平 (東海大) 海老沼匡 (パーク24)
66kg級	丸山城志郎 (ミキハウス) (4年ぶり2回目)	田川兼三 (筑波大)	藤阪太郎 (大阪府警) 末木貴将 (筑波大)
60kg級	宮之原誠也 (国士館大) (初優勝)	山本達彦 (東海大)	宮本拓実 (自衛隊体育学校) 大島優磨 (旭化成)
◆女子			
78kg超級	井上あかり (環太平洋大) (初優勝)	素根 輝 (南筑高)	稲森奈見 (三井住友海上) 山本沙羅 (ミキハウス)
78kg級	濱田尚里 (自衛隊体育学校) (2年ぶり2回目)	和田梨乃子 (大成高)	泉 真生 (山梨学院大) 高山莉加 (三井住友海上)
70kg級	新添左季 (山梨学院大) (2年連続2回目)	田中志歩 (環太平洋大)	朝飛七海 (桐蔭学園高) 大野陽子 (コマツ)
63kg級	土井雅子 (環太平洋大) (初優勝)	田代未来 (コマツ)	大住有加 (JR東日本) 鍋倉那美 (三井住友海上)
57kg級	山本 杏 (パーク24) (5年ぶり3回目)	渡部優花 (ALSOK)	玉置 桃 (三井住友海上) 柳楽祐里 (JR東日本)
52kg級	阿部 詩 (夙川学院高) (初優勝)	立川莉奈 (福岡大)	宮川拓美 (北陸総合警備保障) 渡邊貴子 (帝京大)
48kg級	遠藤宏美 (ALSOK) (初優勝)	森崎由理江 (宮崎大学教員)	田中芽生 (龍谷大) 山崎珠美 (自衛隊体育学校)

「グラندスラム東京2017 出場選手」

大会終了後、強化委員会が開かれ、12月2日・3日に行われるグラندスラム東京2017の日本代表選手56名を決定した。

■日本代表選手

◇男子

- ▼60kg級 高藤直寿 (パーク24)、永山竜樹 (東海大)、宮之原誠也 (国士館大)、志々目徹 (了徳寺学園職)
- ▼66kg級 阿部二三三 (日本大)、丸山城志郎 (ミキハウス)、田川兼三 (筑波大)、磯田範仁 (国士館大)
- ▼73kg級 橋本壮市 (パーク24)、立川新 (東海大)、野上廉太郎 (筑波大)、大野将平 (旭化成)
- ▼81kg級 佐々木健志 (筑波大)、小原拳哉 (パーク24)、山本悠司 (天理大)、藤原崇太郎 (日体大)
- ▼90kg級 向翔一郎 (日本大)、釘丸太一 (センコー)、小林悠輔 (旭化成)、長澤憲大 (パーク24)
- ▼100kg級 ウルフアロン (東海大)、羽賀龍之介 (旭化成)、飯田健太郎 (国士館大)、下和田翔平 (京葉ガス)
- ▼100kg超級 王子谷剛志 (旭化成)、原沢久喜 (日本中央競馬会)、影浦心 (東海大)、小川雄勢 (明治大)

◇女子

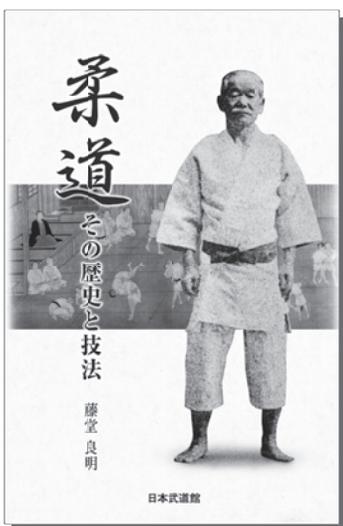
- ▼48kg級 渡名喜風南 (帝京大)、近藤亜美 (三井住友海上)、遠藤宏美 (ALSOK)、森崎由理江 (宮崎大学教員)
- ▼52kg級 志々目愛 (了徳寺学園職)、角田夏実 (了徳寺学園職)、阿部詩 (夙川学院高)、立川莉奈 (福岡大)
- ▼57kg級 芳田司 (コマツ)、山本杏 (パーク24)、玉置桃 (三井住友海上)、宇高菜絵 (コマツ)
- ▼63kg級 土井雅子 (環太平洋大)、田代未来 (コマツ)、鍋倉那美 (三井住友海上)、津金恵 (筑波大)
- ▼70kg級 新井千鶴 (三井住友海上)、新添左季 (山梨学院大)、田中志歩 (環太平洋大)、大野陽子 (コマツ)
- ▼78kg級 梅木真美 (ALSOK)、佐藤瑠香 (コマツ)、濱田尚里 (自衛隊体育学校)、和田梨乃子 (大成高)
- ▼78kg超級 朝比奈沙羅 (東海大)、井上あかり (環太平洋大)、素根輝 (南筑高)、稲森奈見 (三井住友海上)

好評発売中!

柔道 その歴史と技法

筑波大学体育系教授 藤堂 良明 著

「原点に帰る」には、「原点を知る」必要がある。



四六判・上製・330頁・本体2,400円+税

柔道の歴史を振り返りつつ、その技法が、どのように形作られてきたのかを、丁寧に解説しています。



武道の稽古は、技を通して精神を磨き、やがて社会のためになるという教育の道でもあった。時代は移り変われども、日本の伝統に培われた^{*}武道としての柔道、を見失わないでいただきたいと願うものである。(本書「あとがき」より抜粋)

目次

<p>第一章 組討ちの起こりと技法 体術の起こりと技法 組討ちの体系化と技法</p> <p>第二章 柔術諸流派の歴史と技法 竹内流腰廻 関口新心流柔術 起倒流柔術 起倒流柔道 直信流柔道 真之神道流柔術 天神真楊流柔術</p>	<p>第三章 講道館柔道の歴史と技法 講道館柔道の創設と技法 嘉納治五郎の乱取開発 講道館柔道の行事と整備 警視庁武術大会の勝利と技法 学校体操への柔道導入の試み 学校における柔道普及の実態 高専柔道の起こりと技法 嘉納治五郎の他武道への接近 精力善用国民体育の創案と技法 全日本柔道選手権大会の開催と技法</p>	<p>第四章 第二次世界大戦後の柔道復活と技法 第二次大戦中の柔道界と技法 第二次大戦後の柔道禁止と復活 格技柔道から武道柔道へ 女子柔道の競技化と技法</p> <p>第五章 柔道技法の変遷と国際化への課題 柔道技法の変遷と特徴 柔道の国際的普及と発展 段位制度の国際比較 柔道の国際化と課題</p>
--	--	--

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



役に立つ 少年柔道指導法

講道館道場指導部課長

向井 幹博 著

(A5判・並製・DVD付・414頁)



女子柔道の 歴史と課題

筑波大学体育系准教授

山口 香 著

(四六判・上製・412頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



柔道は すばらしい

柔道塾紀柔館館長

腹巻 宏一 著

(四六判・上製・310頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)



武道 子どもの心を育む

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



柔道の国際化 —その歴史と課題—

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

(四六判・上製・552頁)



嘉納治五郎師範に学ぶ

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

(四六判・上製・292頁)



特別練習会の参加者による鎮魂行 主座：山崎博通大範士九段

少林寺拳法創始 70 周年記念事業

ブルースカイキャンパス in 多度津

創始 70 周年を祝して盛大に開催



多度津中学校吹奏楽部によるパフォーマンス



少林寺拳法創始70年記念事業、ブルースカイキャンパスin多度津が11月3日〜5日、少林寺拳法総本部を含む香川県多度津町内の施設で開催された。「架け橋たれ」がテーマの本事業には、全国の拳士や一般の来場者、延べ7000名が来場。本部での特別練習会のほかに、特別講演、記念フォーラム、体験教室、パフォーマンスステージといった様々なイベントが行われた。

◆11月3日

●本山開放・特別練習会

早朝より青空が広がった3日、ブルースカイキャンパスin多度津が開幕。特別練習会が少林寺拳法総本部の本堂と錬成道場で行われた。



宗由貴少林寺拳法グループ総裁

本堂において、参加者全員で記念撮影、鎮魂行を行った後、会場を移して少林寺拳法創始10周年から60周年までの記念事業の映像を全員で視聴。参加者それぞれが様々な思いを抱いて当時の映像に思いを馳せた。映像視聴に引き続き宗由貴少林寺拳法グループ総裁が挨拶に立った。

「ようこそ、創始70周年記念事業へ。『ブルースカイキャンパスin多度津』という今までにない新しい取組、イベントにご参加いただいたことを嬉しく思います。せっかくの周年行事ですから、皆さん一人ひとりが楽しんで、十分満足、納得して、そしてそれを人につなげて『架け橋』をかけていただきたいと思っております」

総裁挨拶の後は、特別練習会となり、参加者は五段以上と四段以下のグループに分かれて、それぞれの会場に移動した。特別練習会は休憩を挟んで40分の練習を2回実施。山崎博通大範士九段と、新井庸弘大範士九段が講師となり、グループを交代しながら指導にあたった。参加者たちは両講師の指導する高レベルの技術習得に真剣に励む一方、笑いを誘

う話に参加者の笑顔もこぼれるなど和気藹々とした雰囲気の中で練習が行われ、充実の内容となった。

●特別講演

特別練習会の後には、法学博士(早稲田大学)の西原春夫東京都少林寺拳法連盟会長が「日本の安全保障政

策を完璧に理論づける少林寺拳法の精神」の題で講演を行った。講演の中で西原氏は、少林寺拳法の「守主攻従」や「力のない正義は無力であり、正義のない力は暴力である」、「半

ばは自己の幸せを、半ばは他人の幸せを」といった教えを、日本の安全保障政策に当てはめた平和理論を展

開。少林寺拳法の教えで日本の平和国家としてのあり方が理論づけられると主張し、講演を締め括った。

◆11月4日

●記念フォーラム

4日は少林寺拳法総本部、多度津町内の施設で、うどん打ち体験、写経と巻物づくり、チャリテイライブ、少林寺拳法・健康プログラムなどのイベントが実施された。

本部では、午前10時より「2025年つながりがつくる未来への架け橋」をテーマにした記念フォーラムを開催。まず、武藤芳照東京大学名誉教授が「からだを育み、心を育み、つながりを育む」を題に基調講演を行った。武藤氏は、「からだ」「心」「つながり」の3つのテーマに関連した話を、医学的見解やユーモアを交えて講演。その軽妙な語り口で聴講者を引き込み、会場からは絶えず笑い声があがっていた。武藤氏は講演の最後に、アリストテレスの「ライフ・イズ・モーション」の言葉を引用し、「生命活動は動くことにより成り立っています。からだは動けば心が動

く。心が動けばからだは動く。からだを育み、心を育み、つながりを育むことが、そこから生まれてくるのだと思います」と講演を結んだ。

基調講演終了後は、パネルディスカッションとなり、多彩なジャンルのパネリスト4名が登壇。座長を武藤氏が務め、2025年の超高齢化社会等の問題や将来の日本について討議した。終わりに、武藤氏が基調講演、パネルディスカッションの総括をしてフォーラムは終了した。

●少林寺拳法体験

午後には多度津中学校の体育館で少林寺拳法体験が行われ、中学校武道必修化プロジェクト委員会委員長の中島正樹講師ほか、多度津中学校の少林寺拳法部員も指導の補助にあたった。

少林寺拳法体験は約1時間で内容が生まれ、結手、合掌礼、突き、蹴り、それらを組み合わせた二人一組みでの練習、演武発表を行った。参加者は講師や指導補助員に動きを教わり、四苦八苦しながらも基本の動きを身に付け、最後の発表では、しっかりと演武を披露した。



特別練習会の様子



西原春夫東京都少林寺拳法連盟会長



特別講演の様子



記念フォーラム基調講演
武藤芳照東京大学名誉教授



パネルディスカッション



少林寺拳法体験

最後に、中島講師より日本武道協
議会が本年5月に作成した『中学校
武道必修化指導書・DVD』の紹介
があり、大人の参加者に無償配布さ
れた。

○参加者の声（香川県在住、男性）
「身体を動かして気持ちよかったです。
少林寺拳法は初体験でしたが、
ただのスポーツと違い、精神性があ
る武道という点が気に入りました。
体験は時間が短いので、ついでいく
のが大変でした。もっと時間に余裕
があればよかったですね。武道経験
はありませんが、定年になったら健
康維持をかねて少林寺拳法をやつて
みたいです」

◆11月5日

●パフォーマンスステージ

5日も各所で4日と同様の行事が
行われた。本部の締め行事である
パフォーマンスステージでは、多度
津京極少林寺拳法太鼓や、多度津中
学校吹奏楽部の演奏が披露された。
最後に、連盟役員やゲストが餅投げ
をして、盛会の裡に3日間の行事が
終了した。

◇少林寺拳法創始70周年を迎えて

川島一浩会長インタビュー



―ブルースカイキャンペーン多度津の企画意図をお聞かせください。

「ブルースカイキャンペーン多度津は少林寺拳法創始70周年最大のイベントという位置づけです。共通のテーマが『架け橋たれ』ということ、少林寺拳法をどう次世代につないでいくか、どのように社会貢献できるかということを考えて実施しています。今回は従来と違い、20〜40代の職員が中心になって企画しました。若手主体で企画したのは、次世代のことを考えたからです。次の世代へのバトンタッチといえますか、本部も過渡期に来ていると思います、この形になりました。記念フォーラムや特

別講演などを行います。少林寺拳法の教育性を打ち出すことが狙いです。武道団体の一つですが、色々なことを含めて問題提起したいと思っています」

―中学校武道必修化の現状についてはいかがでしょう。

「中学校のクラブがあるのは50数校、少林寺拳法採用校は30校とまだまだです。新井前会長のときから、各県2校を目標にしてみました。必修化には『もろは諸刃の刃やいば』の面があつて、

『楽しい、面白い』となればいいのですが、『怖い、きつい』というイメージができてしまうと全体のマイナスになりますので、その辺りは考えて指導しています。他にも保健体育科の先生が資格を取りやすいようにしたりですとか、全国の所属長で定年退職して、ゆとりのできた人に外部指導者をお願いするなど、今後も力を入れていきたいです」

―少林寺拳法がここまで広まり、世界でも受け入れられた要因はどの辺にあると思われませんか。

「やはり開祖の教えだと思えます。人づくりによる国づくりという考え

です。開祖は武道の一流派を作ろうと思つて少林寺拳法を創始したわけではありません。戦後、日本の荒廃した姿を見て、身体と心の両方を鍛え、信念と勇気を持った人間を一人でも多く育てたいという気持ちがありました。それが受け入れられ、浸透していったからこそ、ここまで大きくなったのだと思います」

―これから連盟として取り組みたいことを教えてください。

「現在、独自の少林寺拳法・健康プログラムの取り組みがあります。『武道は敷居が高い』という方が少しでも身体を動かしたり、女性であれば悩みごとを相談したり、高齢の方であれば、健康や孤独の問題を話したりもできる、身体を動かす楽しさを実感してもらうプログラムです。これを広め、少林寺拳法を学校のクラブや社会に更に普及させていくことも重要です。他には、経験者に高校や大学で終わらずに継続性を持つて一生涯やっってもらえるような方策を考えていきたいです」



ブルースカイキャンパスin多度津で
開催された様々なイベント



チャリティライブ



グルメ屋台



少林寺拳法・健康プログラム（体操）体験



うどん打ち体験



巻物づくり



全国の和菓子と美味しいお茶の体験

マンガ・武道の偉人たち



マンガ・武道の偉人たち

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著

B5判・302頁・本体 1,000円+税

武道の基礎を築いた偉人たちの生涯をマンガで学べる。
収録偉人一覧：嘉納治五郎（柔道）、高野佐三郎（剣道）、阿波研造（弓道）、
双葉山（相撲）、船越義珍（空手道）、植芝盛平（合気道）、宗道臣（少林寺拳法）、
園部秀雄と三田村千代（なぎなた）、鶴沢尚信（銃剣道）

ご注文・お問い合わせ 日本武道館 月刊「武道」編集部 〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3 TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<http://www.nipponbudokan.or.jp> インターネットでのご注文は、「武道館単行本」と検索!

好評発売中

『人、人、人、
すべては人の質にある……』
少林寺拳法創始者・宗道臣先生に
直接手ほどきを受けた著者入魂の
武道教育論！

可能性の

種子たち

『魄』は生きるための生命力——
『魂』は人間を善に導く原動力——

魂魄(こころ)が健全に育てば、豊かな感性や
意思力、行動力などが備わり、やがて得るであ
る多くの知識を、智慧とすることができ、
子どもたちの躍動の一つひとつが、可能性の種
子の芽生えなのである。

—魂魄(こころ)を育てる—

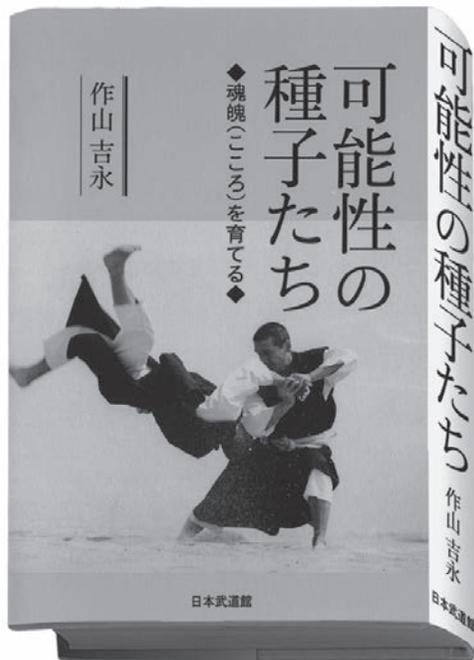
金剛禅総本山少林寺茨城高萩道院長

作山吉永 著

(四六判・上製・338頁)

主な目次

- 第1章 少林寺拳法 / 第2章 直心是道場 / 第3章 師事 /
- 第4章 マイ・アメリカ / 第5章 可能性の種子、芽吹く /
- 第6章 嵩山少林寺 / 第7章 魂魄(こころ)を育てる /
- 第8章 新しい扉を開く



編集・発行 日本武道館
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)

マンガ・武道のすすめ



(B5判・236頁)

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・
銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、
すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。
大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。



少林寺拳法は4話を掲載！



平成29年度全国警察剣道大会

大阪府警が3連覇を達成

新設した女子の部でも大阪府警が優勝

平成29年度全国警察剣道大会（第64回）（主催：警察庁）が10月16日、日本武道館で開催された。試合は男子第1部、第2部、第3部、女子の部のグループ別による団体戦が行われた。第1部は大阪府警が3連覇を達成。第2部は愛知県警、第3部は鹿児島県警がそれぞれ優勝。今大会から新設された女子の部では、大阪府警が初の栄冠に輝いた。



女子の部・決勝先鋒戦＝大阪・大谷（左）が逆胴を決める



第1部・決勝副将戦＝大阪・牛島（左）が大阪を3連覇に導いた

■第1部（7人制）

第1部は、12チームを4組に分けてリーグ戦を行い、順位を決定。各組の首位チームによるトーナメント戦で覇を争った。

トーナメント戦に勝ち上がったのは、昨年優勝の大阪、4年連続ベスト4進出の北海道、昨年3位の警視庁、昨年準優勝の神奈川の4チーム。準決勝は大阪が北海道を4―3で、警視庁が神奈川を4―3で、それぞれ降した。

決勝は3連覇を狙う大阪と警視庁の対決。大阪は先鋒・前田が面、次鋒・土谷が引き胴の一本勝で連勝し

てリードする。

続く五将戦では警視庁・竹ノ内が意地を見せ、面の二本勝で1勝をあげる。中堅戦では、大阪・岩切が面一本勝。三将戦は、大阪・後藤が小手で先制すると、警視庁・畠中が面を奪って引分で試合終了。勝負の行方は副将戦へ。

副将戦、大阪・牛島が積極的な攻めで警視庁・正代に小手返し面を決めて一本勝し、勝負あり。大阪はさらに大将の金城戸が終了間際に引き面で一本勝。大阪は5―1と大勝して3連覇を達成した。

◎優勝Ⅱ大阪府警・平田裕亮監督

「ホッとしました。選手が全ての方を出し切らないと勝てない相手なので挑戦者の気持ちで臨みました」

◎優勝Ⅱ牛島辰徳選手（大阪・副将）

「無我夢中でした。（決勝は）待つのではなく、自分が攻めたところで面を返せて良かったと思います」

■女子の部（3人制）

今大会から新設された女子の部は、第1部同様、リーグ戦を行い、各組の首位チームによるトーナメント戦で鎧を削った。

トーナメント戦に残ったのは、大阪、警視庁、神奈川、岡山の4チーム。準決勝は大阪が警視庁を1（2）―1（1）の本数勝で、神奈川が岡山を2―0で、それぞれ降した。

決勝は大阪と神奈川の対決。先鋒戦、大阪・大谷が逆胴を決めて一本勝。中堅、大将戦はともに引分となり、先鋒戦の1勝を守り切った大阪が1―0で初の栄冠を勝ち取った。

◎優勝Ⅱ大阪府警・石田真理子監督

「警察の団体戦は初めてで、時間内に必ず一本を取ることができた選手を育てるのにかなり苦労しました」

◎優勝Ⅱ大谷弓絵選手（大阪・先鋒）

「先輩方が、『焦らんでいい、私たちが絶対に勝つから』と言ってくれて、それが心の支えになりました」

【大会結果】

▽第1部Ⅰ ①大阪府警、②警視庁、③神奈川県警

▽第2部Ⅰ ①愛知県警、②兵庫県警、③岐阜県警

▽第3部Ⅰ ①鹿児島県警、②福井県警、③三重県警

▽女子の部Ⅰ ①大阪府警、②神奈川県警、③警視庁

平成29年度全国警察柔道大会

兵庫県警が2度目の優勝

平成29年度全国警察柔道大会（第69回）（主催：警察庁）が10月17日、日本武道館で開催された。試合は第1部、第2部、第3部のグループ別による団体戦で行われた。第1部は兵庫県警が5年ぶり2度目の優勝を果し、第2部は熊本県警、第3部は沖縄県警が優勝した。

■第1部（7人制）

第1部は7人制の団体戦により、12チームが参加。4グループに分け

られたチームが、各組ごとにリーグ戦を行って順位を決める。さらに、各組の首位チームによるトーナメント戦を行って覇を競った。



第1部・決勝三将戦=兵庫・長尾（右）対大阪・川瀬



第1部優勝=兵庫県警

リーグ戦の結果、トーナメント戦に残ったのは、3連覇を目指す大阪、神奈川、昨年3位の兵庫、昨年準優勝の福岡の4チーム。準決勝は大阪が神奈川を4-1で降し、兵庫は福岡に0-0で引き分け、代表戦の末、兵庫が接戦を制した。

決勝は、2度目の優勝を虎視眈眈と狙う兵庫と3連覇に王手をかける大阪との対決。

先鋒戦は引分。続いて次鋒戦、開始わずか16秒、兵庫・田原は大阪・村上の襟を釣り手で素早く掴んで巴投の姿勢となり、堪えた村上に腕挫十字固を仕掛けて一本となった。

続く、五将、中堅戦は引分。

兵庫がリードして迎えた三将戦。兵庫・長尾と大阪・川瀬の対戦。序盤は組手争いから互いに攻めあぐねる展開。1分経過、川瀬に消極的として指導1が与えられると、ここで試合は動く。長尾はすばやく川瀬の左腕を取って、一本背負投を決める。巻き返しを図りたい大阪だったが、兵庫が2-0とリードを広げたまま、副将戦、大将戦は引分となり、兵庫が5年ぶり2度目の優勝を手中に収めた。

◎優勝 兵庫県警・山本紀市監督

「選手は私が止めに入るくらいの激しい自主稽古を重ね、攻め続けるという意識を持って戦いました」

◎優勝 田原仁志選手（兵庫 次鋒）

「1カ月前に恥骨を疲労骨折してしまった。大会には絶対出たかったのですが、痛み止めと座薬を2本入れて無理を言っておかせてもらいました。ここまで出来て良かったです」

◎優勝 長尾翔太選手（兵庫・三将）

「走り込みとウェイトトレーニング、また、柔術の道場で寝技や関節技を学んで試合に臨みました」

【大会結果】

- ▽第1部 ①兵庫県警、②大阪府警、③福岡県警
- ▽第2部 ①熊本県警、②愛媛県警、③鹿児島県警
- ▽第3部 ①沖縄県警、②香川県警、③栃木県警



山神眞一 著
(香川大学教授・同学部長、医学博士、剣道教士八段)

役に立つ少年剣道指導法

好評発売中

少年剣道指導の現場で役に立つ月刊「武道」好評連載を単行本化。現代の少年剣道が抱える様々な問題点に対して、長年教育現場で培った筆者の視点から解決の糸口を探っていく。少年剣道指導者必読の一書。
付録のDVDには、写真では伝え切れなかった実技関連の部分を収録時間115分を超える映像で紹介。

解説DVD付属!



A5判・並製・
256頁・DVD付・
本体2400円+税

目次

- 第一章 一眼〜子どもと少年剣道の今を眼る
現代の子どもの体と心を見つめ直す／少年剣道の現状と課題／少年剣道に対する保護者の声
 - 第二章 一足〜少年剣道の足跡とこれから
現代剣道復活の道程とこれからの少年剣道／剣道の国際化と少年剣道の未来／少年剣道拡大の秘密を探る
 - 第三章 三胆〜指導者の胆力を求めて
少年剣道における指導者の在り方／文武両道と少年剣道／コミュニケーション力と人材育成の極意
 - 第四章 四力〜技の力を学ぶ
剣道のアイズブレイキング／礼法について／立礼と座礼／木刀・竹刀を使用した構えと素振りの対人的指導法／切り返しの際の段階的指導法／基本打突の打ち方と打たせ方／連続技の打ち方と打たせ方／払い技の打ち方と打たせ方／引き技の打ち方と打たせ方
 - 第五章 残心
海外での剣道事情／中学校における剣道授業
- あとがき

編集・発行 公益財団法人 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

◎好評発売中

筑波大学教授 酒井利信 著
四六判・上製・346頁・本体2400円十税

刀剣の歴史と思想

刀剣を単なる武器としてではなく、
神聖なものとして捉える思想とは何か――



題字揮毫―鹿島神宮 鹿島則良 宮司

日本独自の展開をみせてきた刀剣に関する思想を、中国、朝鮮など、東アジアにまでルーツをたどりながら、確かな史料を基に考察。古事記・日本書紀に語られる神話、平家物語・太平記などにみられる三種の神器にまつわる記述、鹿島新當流、示現流に伝わる伝書といった歴史的文献を読み解き、日本刀剣思想のオリジナリティを浮かび上がらせる。

目次

序章	探求の旅をはじめに
第二章	刀剣の歴史
第二章	刀剣思想の源流
第二章	古代中国の宝剣伝説 太阿の剣
第二章	干将莫耶の宝剣伝説
第二章	高祖の斬蛇剣
第二章	道教と剣
第二章	古代朝鮮の刀剣思想
第二章	神話的世界の形成と劍神の誕生
第二章	天より降る剣 節霊剣
第二章	天地を繋ぐ剣 草薙剣
第三章	信仰のなかの刀剣思想
第三章	祀る剣 祀られる剣
第三章	辟邪の呪剣
第三章	うけいの呪術と剣
第四章	中世における刀剣思想
第四章	修験道と剣
第四章	三種の神器の不思議
第四章	『平家物語』にみる三種の神器
第四章	『太平記』が語る草薙剣像
第五章	近世剣術における刀剣思想
第五章	剣術伝書に語られる日本神話
第五章	新當流にみる霊剣の技術
第五章	示現流にみる心の利剣
第六章	近現代における刀剣思想
第六章	近世以降の刀剣思想
第六章	古代と現代を繋ぐ刀剣
第六章	鹿島神宮日本刀奉納鍛錬
終章	稽古照今

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

第65回全日本学生剣道優勝大会

筑波大が2年ぶりの頂点へ



決勝・代表者戦＝筑波大・筒井（右）の面が決まる

第65回全日本学生剣道優勝大会（主催＝全日本学生剣道連盟・毎日新聞社）は、10月29日に日本武道館で開催された。大会には、全国8地域から厳しい予選を勝ち抜いた64大学が出場し、大学団体日本一をかけて白熱した試合が展開された。決勝は、筑波大と鹿屋体育大が対戦。筑波大が代表者戦を制し、2年ぶり13度目の優勝を果たした。

大会は7人の団体制で行われ、試合時間は5分、三本勝負とし、勝敗が決しない場合は引分とした。チームの勝敗は勝者数によって決め、同数の場合は総取得本数で決した。勝者数、総取得本数も同数の場合は、時間無制限の一本勝負で行われる代表者戦で勝敗を決した。

序盤戦から混戦が続き、前回優勝の大阪体育大は2回戦で慶應義塾大に敗れ、前回準優勝の中央大は3回戦で鹿屋体育大に涙を吞んだ。その中で準決勝には、関東大会優勝の筑波大と九州大会2位の別府大、九州大会優勝の鹿屋体育大と関東大会2位の明治大が名を連ねた。



準決勝・大将戦＝鹿屋体育大・真田（右）対明治大・山田

▼準決勝

鹿屋体育大	2	1	明治大
先鋒 寺田清貴	×		山田将也
次鋒 曾田峻平	×		山本雅人
五将 上村貴弥	×		津田祐輝
中堅 山崎仁平	×		千田海
三将 草野龍二郎	×		梶谷彪雅
副将 牧島凜太郎	1	0	植田祐勢
大将 真田裕行	1	0	山田凌平

先鋒から中堅まで引き分けて三将戦、鹿屋体育大・草野が上段から豪快に片手面を決めて一本勝。続く副将戦は、明治大・植田が一瞬の隙をついて逆胴を決めて、勝負は大將戦にもつれる。大將戦は4年生の鹿屋・真田と3年生の明治・山田による九州学院高校の先輩・後輩対決。



準決勝・三将戦＝筑波大・星子（右）の胸が決まる



優勝＝筑波大

試合開始40秒、互いに面に飛ぶが、真田の面がわずかに速く、一本となる。山田も猛攻を仕掛けるが、真田が上手く捌いて試合終了。鹿屋体育大が決勝に進出した。

▼準決勝

筑波大 5-1 別府大
 先鋒 西山晃平メコー 内橋 涼
 次鋒 麿 健介 × 住 風磨
 五将 多賀谷歩ココー 大塚莉士
 中堅 初田 彪メメー 山下優斗
 三将 星子啓太ドメード 嶋田和晃
 副将 佐々木陽朗 メー 水野秀章
 大将 筒井雄大 ドーメメ塩野海風

先鋒戦、筑波大・西山が初太刀で面を決めて先制。続けて、別府大・内橋が手元を上げたところに小手を決めて、二本勝を収める。次鋒戦は引き分け、筑波は五将・多賀谷、中堅・初田が勝利して、決勝進出に王手をかける。三将戦、試合開始1分過ぎに筑波・星子が別府・嶋田の面を返して胸を奪う。この時点で筑波大の決勝進出が確定。嶋田も胸を取り返すが、星子が引き面を決めて勝負あり。副将戦は筑波・佐々木が面を決めて一本勝。大将戦は別府・塩野が一矢報いるが、筑波大が決勝に駒を進めた。

▼決勝

筑波大 0代-0 鹿屋体育大
 先鋒 西山晃平 × 寺田清貴
 次鋒 麿 健介 × 曾田峻平
 五将 多賀谷歩 × 上村貴弥
 中堅 初田 彪 × 山崎仁平
 三将 星子啓太 × 草野龍二郎
 副将 佐々木陽朗 × 牧島凜太郎
 大将 筒井雄大 × 真田裕行
 （代表者戦）

筒井雄大 メー 真田裕行
 決勝は、両大学とも先鋒から大将まで一本も有効打突を奪えず、勝負は代表者戦に持ち越される。代表者戦は、筑波大・筒井と鹿屋体育大・真田による大将同士の対戦。試合は、両者とも捨て切った技を出せず、一進一退の攻防が続く。試合開始10分、筒井が狙いをすまして面に飛ぶと、これが一本となった。筑波大が接戦を制して、2年ぶり13回目

の優勝を決めた。
 ◎優勝Ⅱ筑波大・筒井雄大選手
 「今回のチームは結束力もありましたし、つないでいけば優勝できると思っていました。（決勝で対戦した）真田選手は色々なところから技が出てくるので、自分はあるべく崩れず

に、得意なところで勝負するように心がけました。来年からは大学院に進むので、後輩たちに負けずにまた稽古を積んでいきたいです」

◎優勝Ⅱ筑波大・銅山隆弘監督
 「筒井には1年生の頃から、欠点を指摘して改善を求めてきたんです。それが理解して、クリアしていくという努力ができる選手ですね。この代は試合に出ている4年生たちも、すごく頑張るんですよ。上級生のリーダーシップが最高だったと思います」

【大会結果】

- ◎優勝Ⅱ筑波大学
- ◎準優勝Ⅱ鹿屋体育大学
- ▽第3位Ⅱ別府大学
 明治大学
- ▽敢闘賞Ⅱ駒澤大学、国士舘大学、
 関西大学、大東文化大学



文京区立中学校で初めての弓道授業

10月16日～24日のうちの5日間、文京区立中学校で初めてとなる弓道の授業が文京区立第三中学校において実施された。最終日の24日、本誌記者はその模様取材した。

■弓道授業の導入
弓道授業は、第3学年の男女において、柔道授業に加えて5時間の授



最終日に行われたビンゴゲームの様子

■弓道授業の準備

弓道授業の前は、体育館に畳を敷いて柔道の授業が行われていた。柔道授業終了後、生徒たちは体育館の片面壁側6カ所に畳を運んで弓道的の土台となる安土あづちの設営準備を進めていく。柔道授業と弓道授業が連続して実施される場合、第三中学校では、このような時間短縮をしているという。その後、外部指導者により、安土が手際よく設営された。裏返した畳を体育館の側面に立てかけて、段ボールをガムテープで固定して紙が貼られる。弓具については、全日本弓道連盟が手配しており、女子は胸あてを使用した。

■弓道授業の実際
当日は、榎田ちひろ教諭が授業者となり、他に教諭1名、田口大祐氏をはじめとする外部指導者7名により、実施された。

榎田教諭からは「今までの授業で習ったことを出し切るように」と檄げきが飛ばされ、授業は開始された。はじめは田口指導者によって、弓具を使用せずに、矢を射る際の八つの基本動作となる射法八節しゅうはっせつの全体練習に取り組む。生徒たちは体育館いっぱいに広がり、のびのびと射法八節を行った。

道をつづけてください」と生徒たちへメッセージがおくられた。生徒からは「先生たちのおかげで弓道を知ることができました。ありがとうございます」と返礼が述べられた。生徒たちからは「本当に楽しかった」「3年間やりたかった」などの声があがっていた。弓道授業は好評であったようだ。

続いて、6班に分かれてビンゴゲームを行う。射位しやいからのみでは5m、各班にそれぞれ1名、計6名の指導者が配置され、生徒の射を指導する。全体を田口氏が見渡す。安全のため、矢番やがえと矢取りについては必ず指導者が行う。早速、ビンゴの真ん中となる⑤のマスに矢が中ると、生徒たちからは大きな歓声があがった。男女とも一人4～5射を行った。大きな盛り上がりを見せて終了した。

5時間の短い授業であるので武道的な要素を教えられなかったのが課題であると語る田口氏。それでも1日目の授業では弓道を知ってもらうため模範演武を披露したという。

◎榎田ちひろ教諭の話

「第三中学校での武道は、男女とも柔道を行ってきました。しかし、生徒にはさまざまな武道を経験してほしいと思っており、全日本弓道連盟のリーフレットを拝見したのがきっかけで、連盟の協力をいただきながら弓道授業を行うことができました。指導する方法を手探りしながらの授業となりました。弓道授業はこれで終わりではなく、始まりだと思っています。このような取組を三中で行っていきたいです」

授業の最後、榎田教諭からは「本来、ざわざわした環境では弓道は行いません。まずは皆に弓道の楽しさを知ってもらうことでした」、田口氏からは「高校生になっても是非弓

■弓道授業の感想とこれからの課題
授業の最後、榎田教諭からは「本来、ざわざわした環境では弓道は行いません。まずは皆に弓道の楽しさを知ってもらうことでした」、田口氏からは「高校生になっても是非弓

杉江正敏

(すけいさ・まさとく)

写真と記事でたどる

武道の近代史



月刊『武道』1999年1月号から2001年3月号までの27回連載をまとめた杉江正敏先生のライフワーク。明治以降出版された諸雑誌の記述から、武道を取り巻く日本文化や、体育・スポーツ全般にわたる内容を掲載した記事を紹介する形で、武道がどのように近代化へと歩みを進めてきたのかを明らかにするための基礎資料集。

※本書は非売品のため、書店では取り扱っておりません。日本武道館出版広報課に直接お申し込みください。

杉江正敏先生の略歴

1946(昭和21)年12月11日 岐阜県不破郡垂井町に生まれる
1969(昭和44)年 東京教育大学体育学部体育学科卒業
1971(昭和46)年 同大学大学院体育学研究科修了
同年 同大学教務補佐員
1975(昭和50)年 大阪大学助手
以後 同大学講師、助教授(准教授)、教授に昇格
2010(平成22)年 同大学定年退官
2016(平成28)年7月6日 逝去。享年70



B5判・182頁・
頒価1000円+税
(送料含む)

目次

- 第1回 連載をはじめに あたつて
近代武道史研究の意義／私の研究の整理／明治期における武道の社会的評価／武道とスポーツ／学校教育と武道／戦時体制下の武道
- 第2～12回 『風俗画報』にみる明治期の武道
『風俗画法』について／江戸趣味・懐古・故実にみられる武術／各地、名所図会にみられる武術／武術の興行と講習会への移行について／外国人歓迎行事や博覧会の協賛行事と武術の競技化の進行／明治二十年以降にみられるナショナルイズムの風潮と武道教育／日露戦争と武道の評価／武士道と武道の問題／補遺 およびまとめ
- 第13～20回 『体育と競技』・『アサヒスポーツ』の両誌にみる武道のあゆみ
武道の教育化の進展と名称変更／昭和六年の武道必修化への経過について／武道の競技化の進行とスポーツ／御大礼記念天覧武道大会／体育の日本化の進行と武道教育／「非常時日本」と武道
- 第21・22回 『体育と競技』・『アサヒスポーツ』の両誌にみる武道の国際化のあゆみ
- 第23回 『体育と競技』誌に見る日中戦争期の武道教育のあゆみ
- 第24回 『学校体錬』・『学徒体育』両誌にみる戦時体制下の武道教育について
- 第25・26回 『新武道』誌にみられる戦時体制下の社会における武道について
- 最終回 戦後の武道のあゆみ
学校武道の禁止と大日本武徳会の解散／武道のスポーツ化と学校武道の復活／武道から格技へ／格技から武道へ

杉江正敏先生の略歴と主要業績

編集・発行 公益財団法人日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

好評発売中

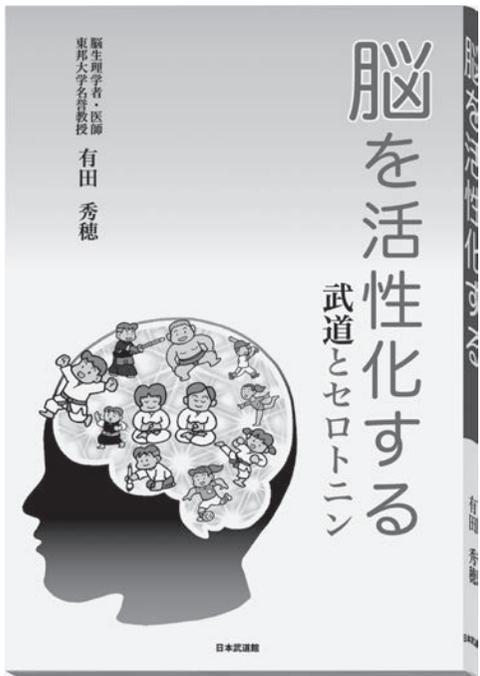
脳生理学者・医師
東邦大学名誉教授

有田 秀穂 著

脳を活性化する

武道とセロトニン

人間の心身を安定させ、「無心」の状態を作るセロトニン神経―その研究の第一人者が、丹田呼吸法を手懸かりに、武道や禅、日本文化を題材として、誰もが
できる脳を活性化する方法をわかりやすく解説。



A5判・並製・346頁・1600円+税



有田 秀穂
(ありた・ひでほ)

昭和23年(1948)東京都生まれ。東京大学医学部卒業。東海大学医学部助手、筑波大学基礎医学系講師、東邦大学医学部教授を経て、現在、東邦大学名誉教授。脳生理学者、医師。セロトニン道場代表。

主な内容

第1部 脳の活性化とは

坐禅とセロトニン

ストレッチとしごき

空海はセロトニン活性の達人

『弓と禅』に学ぶ身体トレーニング

沢庵の「不動智」とワーキングメモリー

不動明王と心の三原色

『弓と禅』に学ぶ無意識の自己意識

悪夢を消すには？

精進料理とセロトニン合成

「茶の湯」とセロトニンの生活

「自然に体が動いた」を脳科学で解く

勝海舟の「明鏡止水の心」を脳科学する

「武道の礼法」は社会脳を育む

相撲の「四股」は品性を育む

書道も心技体の人間修行

アンドロゲンと闘争心

日本の祭にはセロトニンがたっぷり

スキンシップとオキシトシン

空手の稽古は坐禅修行に通じる

脳は「丹田呼吸法」をどう操るか

試合における最適な覚醒状態

サイエンスは「気」をどこまで解明したか

仙人術を脳科学する

第2部 対談「武道で脳を活性化しよう」

日本武道館会長 松永 光

東邦大学名誉教授 有田 秀穂

： 他

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

(翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット)

(B5判・上製・DVD付・336頁)



武士道に学ぶ

皇學館大学教授

菅野 覚明 著

(四六判・上製・344頁)

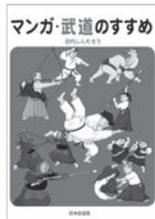


武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家

小笠原清忠 著

(四六判・上製・278頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



<増補版>

私も武道経験者です

月刊「武道」記者

吉野 喜信 著

(四六判・上製・326頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)



武道・ スポーツの真髄

スポーツドクター

辻 秀一 著

(四六判・上製・248頁)



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



武の素描

埼玉大学教授

大保木輝雄 著

(四六判・上製・220頁)



月刊「武道」は、全国の書店で販売しています。